



The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers

電子情報通信学会 特別号 April 2024

情報・システムソサイエティ誌

IEICE INFORMATION AND SYSTEMS SOCIETY JOURNAL

## 2024年度ソサイエティ活動

情報・システムソサイエティ次期会長

斎藤 英雄

慶應義塾大学



情報・システムソサイエティ(以下 ISS)は、情報処理技術とコンピュータ・通信・人間を融合したシステム化に関する基礎・応用技術、さらにはその社会実装までを研究領域としています。会員に研究発表と交流の場を提供し、情報技術分野の持続的な発展と社会問題解決に貢献することを目的とする本会最大規模のソサイエティです。2024年度も前年度に引き続き、論文誌、研究会、総合大会・FIT、国際化、メンターシップWGなどの新しい施策にも挑戦しながら活動を展開してまいります。

## (1) 論文誌

論文誌は研究の最終成果ともいえるものであり、充実に努めます。英文論文誌EDでは、2020年1月から全論文をオープンアクセス化してからは、アクセス数・引用数が向上し、インパクトファクタも上昇傾向です。さらに今後は、通信ソサイエティでも始まったIEEE Xploreからの公開にも足並みをそろえるなどしてよりオープン化の効果を狙っていきます。和文論文誌Dでは、引き続き質の高い査読の継続、査読期間の短縮化に加え、学生やジュニア会員からの投稿や、事例研究等新しい種別の投稿を活性化する施策を実行していきます。

さらに、研専等が主催する学術集会において投稿論文の査読を行っている場合、その査読と論文誌の査読を連携させ、著者の希望に合わせて論文誌への投稿みなすことにより、論文誌への投稿をさらに活性化できるシステムを導入する検討もしています。

## (2) 研究会

現在、ISSでは26の研専(特別研専を含む)が研究会を開催し、各専門分野の研究を議論し、人的ネットワークの形成の場を提供してきています。ほぼコロナ禍の去ったいま、ハイブリット開催の運営コストを抑えることや、研究会の人的ネットワーク形成機能を復活させる意義から、ハイブリットを特別講演等に限定するなど、従来の対面開催に回帰する流れも見受けられます。各研専

の研究会企画・運営が会員の満足度を最大にできることを目指して、ISSとしてもしっかりと支援していきます。

## (3) 総合大会とFIT

2022年度からFITは完全ハイブリット開催となり、対面参加が可能になりました。さらに2024年3月の総合大会は原則対面形式の開催となり、企画セッションのみオンライン聴講可能となりました。オンラインは一部のみで完全対面開催、というのがafterコロナ時代の新しい運営形態になってきました。ISSが始めた総合大会における学生ポスターセッションも、今回は高校生も含む若い研究者の熱い議論が大変盛況でした。引き続きジュニア世代も含めた研究活動の活性化に努めてまいります。

## (4) 国際化

学会全体として国際化を支援する施策が強化されています。その一つとして、海外会員の増加のために、研専が海外で主催する国際会議・ワークショップへの支援が始まっています。また、学会の国際支援策を活用して、学生の国際会議発表のための旅費支援も開始しました。2023年度には国際化の活性化のために2022年6月より組織を拡充した効果も表れており、ISS主催により国際会議MVA2023も円滑に開催できました。今後もこのような流れを加速するための活動をしていきます。

## (5) メンターシップWG

2022年度から設立したメンターシップWGでは、学生や若手研究者に対するトップ国際会議や国際ジャーナルへの論文採択を目的としたメンターシップメンターシッププログラムの支援を開始しました。2024年度も引き続きこの取り組みを発展させます。

以上のようにISSでは、引き続き会員の皆様の研究・技術開発の成功の一助となることを目指します。引き続きご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 情報・システムソサイエティ誌とは？

情報・システムソサイエティが1996年度より年4回発行しているソサイエティ会員向けの情報誌です。

内容は、ソサイエティからのお知らせ、研究専門委員会の動向、研究室紹介、フェローの方々による寄稿、連載コラムなど、会員の皆様の役に立つ情報を満載しております。

特に、毎号の巻頭言には、電子情報通信分野の著

者の方々から寄稿を頂き、好評を博しております。今後も学生や企業の方などより幅広い方々に役立てて頂けるよう、ますます内容の充実を図る予定です。

情報・システムソサイエティ誌は、情報・システムソサイエティに登録をすれば自動的に送付されます。以下でも更に詳しく御紹介します。

### ISS 達人へのステップ 1

#### 情報・システムソサイエティ (ISS) への登録を

電子情報通信学会では1995年4月よりソサイエティ制になり、会員はいずれかのソサイエティに属することになっています。

これから学会に入会される方はもちろん、複数のソサイエティへの登録を希望される方も、ぜひISSに御登録下さい。なお、複数の登録する場合のISSソサイエティ

誌及びオンラインジャーナル購読の追加登録料は3,500円(学生は2,000円)です。ISSへの追加登録を御希望の方は、早急に下記の様式で御連絡下さい。

購読のほかにISSの様々な特典が利用できます。また、ISS論文誌を購読する場合はステップ2を参照して下さい。

### ISS 達人へのステップ 2

#### 情報・システムソサイエティ (ISS) の論文誌は和英2種類

基本登録でオンラインジャーナル(和・英論文誌)の閲覧が可能です。追加登録を御希望の方は早急にマイページから申請もしくは下記の様式で御連絡下さい。

なお、和文論文誌D及び英文論文誌Dのキーワードは下記のとおりです。

#### キーワード：

情報・システム基礎／計算機システム／ソフトウェアシステム／ソフトウェア工学／データ工学、Web情報システム／情報ネットワーク／ディペンダブルコンピューティング／人工知能、データマイニング／ヒューマンコンピュータインタラクション／オフィスインフォメーションシステム、e-ビジネスモデリング／教育工学／福祉工学

パターン認識／音声、聴覚／画像・映像処理／画像認識、コンピュータビジョン／コンピュータグラフィックス／マルチメディア処理／自然言語処理／バイオサイバネティクス、ニューロコンピューティング／生体工学／音楽情報処理／感性情報処理

連絡先： E-mail: kaiin2@ieice.org

名前 (会員番号)  
所属  
連絡先 〒  
E-mail:  
ISS ソサイエティ追加 (オンラインジャーナルとソサイエティ誌)

\*なお、オンラインジャーナルの閲覧は登録処理後からとなります。  
(現在、英文論文誌Dはオープンアクセス化を実施中です。)

## ISS 達人へのステップ3

## 情報・システムソサイエティ(ISS)所属研究会の年間登録を

ISSには24の研究専門委員会（特別研専を含まない）があり、それぞれが活発に研究会（第一種研究会）を開催しています。2023年には、ISSにおいてのべ114回の研究会が開催され、約2,000件の発表が行われました。2020年度には、研究会参加費の改訂により、研究会にご参加頂きやすくなりました。特に年間参加登録がお勧めです。年間参加登録を行えば、学会Webページのプログラム上に予稿（技報）ダウンロード用のリンクが現れ、参加できない回の方も含めて簡単かつタイムリーに技報を入手できるようになりますので、大変便利です。学生会員は3研究会まで無料で年間参加登録できます！さらに、ISSの全ての第一種研究会への一括参加登録（ひと月あたり1,100円（税込）のコストです）を行えば、当該年度のISSの全ての研究会の技報をWebのプログラム画面から入手できるようになり、極めて快適です。技報オンラインシステム(<https://www.ieice.org/ken/user/>)にログインし（未登録の場合はユーザ登録が必要）、[技報完全電子化]参加費・年間登録費のお支払い/ダウンロード権の購入のリンクからご登録ください。クレジットカード決済または請求書払いが可能です。どうぞ積極的に研究会活動をご活用ください。

表1：研究会参加費

	オンライン申込（税込）		当日現金払（税込）	
	会員	非会員	会員	非会員
一般	1,980 円	2,970 円	2,000 円	3,000 円
学生	－（注）	1,100 円	500 円	2,000 円

注：本会および提携学会学生会員で技報電子ファイル不要の場合は、参加費は無料です。

表2：研究会年間登録費（会員の場合）

研究会（記号）	登録費（税込）	委員長
ME とバイオサイバネティクス(MBE)	6,600 円	吉田 久(近畿大)
ライフインテリジェンスとオフィス情報システム(LOIS)	6,600 円	戸田 浩之(NTT)
画像工学(IE)	6,600 円	坂東 幸浩(NTT)
言語理解とコミュニケーション(NLC)	4,400 円	吉田 光男(筑波大)
コンピュータシステム(CPSY)	4,400 円	中島 耕太(富士通)
コンピューテーション(COMP)	5,500 円	宇野 裕之(阪公大)
人工知能と知識処理(AI)	4,400 円	藤田 桂英(東京農工大)
ソフトウェアサイエンス(SS)	4,400 円	岡野 浩三(信州大)
データ工学(DE)	4,400 円	豊田 正史(東大)
パターン認識・メディア理解(PRMU)	5,500 円	柏野 邦夫(NTT)
ディペンダブルコンピューティング(DC)	6,600 円	土屋 達弘(阪大)
ニューロコンピューティング(NC)	5,500 円	田中 宏和(東京都市大)
知能ソフトウェア工学(KBSE)	5,500 円	猿渡 卓也(NTT データ)
音声(SP)	4,400 円	戸田 智基(名大)
教育工学(ET)	6,600 円	小尻 智子(関西大)
医用画像(MI)	5,500 円	原口 亮(兵庫県立大)
ソフトウェアインタプライズモデリング(SWIM)	4,400 円	林 章浩(静岡理工科大)
リコンフィギャラブルシステム(RECONF)	4,400 円	山口 佳樹(筑波大)
情報通信システムセキュリティ(ICSS)	4,400 円	井上 大介(NICT)
情報論的学習理論と機械学習(IBISML)	4,400 円	杉山 将(理研)
マルチメディア情報ハイディング・エンリッチメント(EMM)	6,600 円	新見 道治(九州工大)
クラウドネットワークロボット(CNR)	4,400 円	西川 由理(産総研)
サービスコンピューティング(SC)	4,400 円	木村 功作(富士通)
合意と共創(Consen)	4,400 円	伊藤 孝行(京大)
上記の全ての研究会への一括参加登録	13,200 円	

# FIT2024 第23回情報科学技術フォーラム

## 選奨論文・一般論文 講演募集案内



【会期】2024年9月4日(水)～6日(金)

【会場】広島工業大学五日市キャンパス ハイブリッド開催(予定)

FIT2024 Web ページ <https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2024/>

受付期間：2024年3月29日(金)～5月8日(水)

電子情報通信学会 情報・システムソサイエティならびにヒューマンコミュニケーショングループは、情報処理学会と合同で、2002年から毎年秋季に「情報科学技術フォーラム(FIT: Forum on Information Technology)」を開催しており、2024年9月に第23回目を広島工業大学五日市キャンパスでハイブリッド開催します。

FIT2017より「査読付き論文」を廃止し選奨論文制度を導入しました。論文の種類は、「選奨論文」と「一般論文」があり、「選奨論文」の中から、船井ベストペーパー賞及びFIT論文賞を、「一般論文」の中からFIT奨励賞を選定し表彰します。また、論文の種類に関わらず、若手研究者を対象に優れた発表をした方を選定し、FITヤングリサーチャー賞として表彰します。

### 【FIT論文表彰制度】

船井ベストペーパー賞	選奨論文の中からFIT学術選定委員会で審査の上、3件選定 賞金は船井情報科学振興財団より20万円贈呈
FIT論文賞	選奨論文の中からFIT学術選定委員会で審査の上、7件程度選定 賞金はFIT運営委員会より5万円贈呈
FITヤングリサーチャー賞	2024年12月31日現在で33歳未満の講演者の中から、特に優れた発表をされた方を選定 賞金はFIT運営委員会より3万円贈呈
FIT奨励賞	一般論文のセッション毎に座長の裁量で優秀な発表を1件その場で選定(該当なしもあり) FIT後に賞状贈呈

多彩なイベントが企画され広範な分野の研究者が一堂に会する本フォーラムは、皆様にすばらしい研究成果発表と最新の情報収集の場を提供します。詳細は逐次上記「FIT2024 Web ページ」に掲載いたします。

### ○● 電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ誌編集委員会 ●○

- 副会長(編集会議担当)  
吉本 潤一郎(藤田医科大学 junichiro.yoshimoto@fujita-hu.ac.jp)
- 編集委員長  
金子 晴彦(東工大 kaneko@c.titech.ac.jp)
- 編集幹事  
浦 正広(金工大 mura@neptune.kanazawa-it.ac.jp)  
小林 諒平(筑波大 kobayashi@cs.tsukuba.ac.jp)
- 特任編集幹事  
菅谷 史昭(マインドワード fsugaya@mindword.jp)  
松居 辰則(早大 matsui-t@waseda.jp)  
門田 啓(NEC monden@nec.com)  
篠崎 隆宏(東工大 shinot@ict.e.titech.ac.jp)  
林 良一(NTT ryoichi.hayashi@ntt.com)  
神原 誠之(奈良先端大 kanbara@is.naist.jp)  
大塚 真吾(神奈川工科大 otsuka@ic.kanagawa-it.ac.jp)  
坪下 幸寛(杏林大 yukihiro-tsuboshita@ks.kyorin-u.ac.jp)  
日置 尋久(京大 hioki.hirohisa.2x@kyoto-u.ac.jp)
- 企画広報幹事  
中野 学(NEC g-nakano@nec.com)
- 和文論文誌編集副委員長  
近藤 一晃(京都大学 kondo@ccm.media.kyoto-u.ac.jp)
- 英文論文誌編集副委員長  
川嶋 宏彰(兵庫県立大 kawashima@gsis.u-hyogo.ac.jp)

- 編集委員  
山口 智子(神戸大 tomokoy@people.kobe-u.ac.jp)  
永徳 真一郎(NTT shinichirou.eitoku@ntt.com)  
亀田 裕介(上智大 kameda@sophia.ac.jp)  
高橋 寛治(Sansan ka.takahashi@sansan.com)  
木村 睦(籠谷大 mutsu@rins.ryukoku.ac.jp)  
中島 祐人(九大 nakashima.yuto.003@m.kyushu-u.ac.jp)  
太田 唯子(富士通 yuiko@fujitsu.com)  
小形 真平(信州大 ogata@cs.shinshu-u.ac.jp)  
大塚 真吾(神奈川工科大 otsuka@ic.kanagawa-it.ac.jp)  
喜多村 章悟(日立 shogo.kitamura.hb@hitachi.com)  
金子 晴彦(東工大 kaneko@c.titech.ac.jp)  
安部川 直稔(NTT naotoshi.abekawa@ntt.com)  
北村 崇師(産総研 t.kitamura@aist.go.jp)  
郡山 知樹(サイバーエージェント t.koriyama@icee.org)  
裏 和宏(愛媛大 ura.kazuhiro.xe@ehime-u.ac.jp)  
諸岡 健一(熊本大 morooka@cs.kumamoto-u.ac.jp)  
五月女 健治(法政大 saotome@hosei.ac.jp)  
小林 諒平(筑波大 kobayashi@cs.tsukuba.ac.jp)  
伊藤 伸志(東大 shinji@mist.i.u-tokyo.ac.jp)  
日置 尋久(京大 hioki.hirohisa.2x@kyoto-u.ac.jp)  
澤邊 太志(奈良先端大 t.sawabe@is.naist.jp)  
中口 孝雄(京都情報大学院大 ta\_nakaguchi@kcg.ac.jp)  
浦 正広(金工大 mura@neptune.kanazawa-it.ac.jp)  
上原 稔(東洋大 uehara@toyo.jp)